

vol. **12**

2022.4.15

http://chiba.seikatsusha.me

E-mail:koto@seikatsusha.net

# 千葉さきえの

ネットの議員は市民と議会・行政をつなぐパイプ役、市民が主役の政治を

## 活動報告



発行：江東・生活者ネットワーク 発行責任者：千葉早希恵 〒136-0072 東京都江東区大島4-7-3ボ-二大島1F tel.3636-9044 fax.3636-9046

区議会  
報告

2022年

第1回

# 定例会

2/24~  
3/30

令和4年度予算審査特別委員会

### 脱炭素ゼロカーボンシティへの取り組み

昨年江東区はゼロカーボンシティを宣言。2050年までにCO2排出量実質ゼロを目指し、環境基本計画では2030年度までの中間目標を、2013年度(排出量336万トン)を基準として37%削減を掲げている。

計画の達成状況を質したところ、現在の中間目標で70万8千トンの削減が必要。今回新たに区独自で作成する「環境検定」などで意識と行動変容を促すと答弁。脱炭素には省エネも重要。「省エネ最適化診断」は、設備投資がなくても大幅なエネルギー消費抑制、経費削減効果がある。

中小企業や各種施設、店舗などに積極的に働きかけることを提案したところ、問い合わせがあれば都が実施している無料の診断を紹介する、と消極的な姿勢だ。

ゼロカーボンシティ実現に向けて前進する予算と謳っている令和4年度予算としては不十分と指摘せざるを得ない。実効性を引き続き検証していく。

### ごみ削減とプラスチック資源循環法施行

脱炭素にはごみ削減、プラスチック削減が欠かせない。4月から、自治体による製品プラの一括回収、資源化を含むプラ法案が施行される。区の準備状況を質したが、再商品化事業者の確保、再商品化時の処理方法、経

費の見込みなど不確定な事項が多く課題の整理が必要とし、具体的な取り組みの答弁はなかった。現在行っている容器プラ資源化では、電池やライター、生ごみなどの混入物を手作業で取り除いている。一括回収でさらに混入物が増えることが懸念される。法の趣旨であるプラスチックのリデュースをすすめるためには、プラ製品の消費を減らすとともに、排出時の分別が必須となる。

今年1月、環境省は「プラスチック使用製品廃棄物分別収集の手引き」を公表している。一括回収に向けたわかりやすい排出方法を示すことが必要だ。

### 就学に向けて、特別支援教育コーディネーターの活用を

近年発達に凹凸があり特別な配慮が必要な子どもが増え、就学前に通う児童発達支援施設には2019年度875人、20年度895人、学齢期の放課後等

デイサービスは同761人、同800人と、今後も利用の増加が予想される。保育所等訪問支援事業では3カ所の発達支援施設や医療センターの臨床心理士が保育所や学校を訪問し、子どもが普段過ごしている場での困りごとへの助言、アセスメントをしている。昨年度は114人が利用、ニーズは高いと言える。

学校ではさまざまな支援体制があるが、保護者は就学前にはどのような支援があるかわからず、適切な支援を受けられないことや、受けるまでに時間がかかってしまうことがある。各校には養護教諭などが兼任する特別支援教育コーディネーターが配置されているが、知られていない。学校生活に不安がある場合には、就学前から対応するよう対策を求めた。

### 学校における性暴力防止対策の強化を

2020年6月、内閣府は

「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を決定し、2020～22年度の3年間で「集中強化期間」としているが、わいせつ事案で処分、逮捕される教員は増加し続けている。区内でも昨年度3件発生。区は「服務事故防止対策委員会」を設置し再発防止の具体的な取り組みをすすめている。

当事者は声をあげられないことを前提とした対策が必要。区内で起こった逮捕事案について、教育長に見解を求めたところ、「責任を感じ、今後こういったことが起きないように、しっかりと取り組んでいきたい」と答弁。いじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力などさまざまな暴力は、子どもの権利侵害である。自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育の強化と、子どもの声を聞き、相談と解決に向けて動く子どもオンブズパ

ーソン、第三者機関の設置などの体制整備を強く求めた。

## 千葉さきえのフットワーク

1/10,11

### 「いただきます～みそをつくる子どもたち～」

主催：東京したまち安全な食とくらしをつくる会

玄米菜食を心がけ、給食に地元の有機農産物を使う保育園のドキュメンタリー映画。みそ汁の味噌は年長の園児が手作りし、卒園前に年少の子に伝えていきます。給食をおいしそうにほおぼる姿や、食べながらうとうと寝てしまう姿に癒され、とてもやさしい気持ちになります。「子どもの生命力を引き出すのは大人の愛だと感じた」「食事を見直し有機食材を中心にしたところ、それまでの体調不良が3カ月ですっかり良くなった」「食べたもので自分の体ができていることを改めて実感した」などの感想がありました。学校給食の有機化を目指して、多くの方とその思いをつなげたいという願いで開催された上映会。実現に向け活動を続けていきたいと強く感じました。



2/19

### 家族支援から始めよう！ ～不登校・ひきこもりなどの生きづらさを抱えた当事者や家族の声を聞こう～

主催：こうとうゆーすてつぷ(NPO法人ワークスコープ)

参加された父親からは、「従来のジェンダー観に縛られ、父親は常に理性的に正しくなければいけない、子どものわがままを聞くことは負けだと思い込み、解決策を考えるばかりで寄り添うことができなかった」と苦悩を吐露され、「一般的に子育ては女性の比重が重く男は逃げられる立場でもある」とも話されました。当事者は「正論をぶつけられると辛い」「友達に体験を話すことができようやく外に出られるようになった」と話されました。解決策は一つではない。原因を探ることはせず、家を安心できる場所にすることが大切。悩んでいる親にも交流し気持ちや考えを整理できる居場所も必要です。

### 【アンケート】にご協力ください

●今後議会で質問に取り上げて欲しい項目に○をつけて下さい。

- 1.福祉・医療 (認知症、在宅医療、介護など)
- 2.教育 (いじめ、不登校、教育費など)
- 3.環境 (香害、プラスチックごみなど)
- 4.子育て支援 (保育園、小児医療、児童虐待など)
- 5.人権・男女共同参画 (性暴力、LGBT、ワークライフバランスなど)
- 6.若者支援 (就労支援、相談、居場所など)
- 7.その他 ( )

●生活者ネットワークに対するご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。



ネットでの  
ご回答は  
コチラ!!

[よろしければお書きください]

お名前：  
ご住所：  
電話FAX：  
メール：

★切り取ってハガキに貼り投函ください